

開催場所：SNUH (Seoul National University Hospital) 大韓民国 Mungyeong

開催スケジュール：

2月26日09:00～18:15 HGXC/PGXC 合同委員会、HGXC 委員会、ソフト作業部会

27日09:00～18:15 PGA 委員会、PGXC 委員会、PG ハイク&フライ作業部会

28日09:00～18:15 総会、各選手権立候補地のプレゼンテーション

29日09:00～12:00 総会、各選手権開催地選挙

参加国：

現地出席：イギリス、イタリア、インドネシア、カザフスタン、北マケドニア、スロベニア、セルビア、チェコ、フィンランド、フランス、ブラジル、ポルトガル、ルーマニア、米国、韓国、日本。16か国

委任状：オーストリア=>ポルトガル、カナダ=>米国、クロアチア=>スロベニア、スイス=>北マケドニア、スウェーデン=>フィンランド、スペイン=>フランス、タイ=>インドネシア、チリ=>ブラジル、ドイツ=>チェコ、ブルガリア=>韓国、ボスニアヘルツェゴビナ=>イタリア、ポーランド=>ルーマニア、モンテネグロ=>セルビア、リトアニア=>イギリス。14か国  
オブザーバー：モンゴル

重要な討議・議決事項の結果（番号は ANNEXE の番号）：

次回総会 2025年3月6～9日 Budva,モンテネグロ

## A) 全種目関連

### 25C

大会委員長が、判断を誤って S7 に抵触する決定をした場合に、ことが大問題となる前に、スチュワード強権を発動できるように「陪審員長に相談した後、スチュワードは必要に応じて、S7 の遵守を確保するため、および/またはイベントの公平性、安全性、完全性を確保するために、大会委員長の決定を無効にすることができる。」との文言を S7 共通に明記する提案。この提案は承認された。

### 31

公認大会での事故報告が極めて少ないことを憂慮して、S7共通の12.6.1に「事故報告の無い大会結果を送信したカテ2の主催者は、競技中に事故が発生しなかったことを示す宣言書に署名しなければならない。」を追加する。また、12.8に「大会終了から1週間以内に、安全ディレクター（安全ディレクターがいない場合は大会委員長）は、civlcomps.orgの専用フォームを通じてすべてのインシデントレポートを提出しなければならない。」を追加する。この提案は承認された。

### 36A,B,C

環境保護方針に関する提案：FAIの環境行動規範に照らし合わせ、2023年の総会でCIVLもそれに沿った指針を策定することを会長から任されたトーマス・セナックが作成し、自己評価テンプレートも併せて作成された。FAI公認大会の主催者は、出来るだけ指針に沿うように大会を運営することが求められ、テンプレートの得点が最低点以上であれば、主催者は環境保護指針のロゴを使用することが出来る。特にカテ1大会では、立候補に際してはテンプレートの提出が求められるとする提案。この提案は承認された。

### 38AA

カテ1大会は、現状では個人タイトルに重きを置いているがこれを、チームタイトルに重きを置く提案。この提案は否決された。

### 38D

産休に伴うWPRSランキングポイントの凍結の提案。凍結期間を1年として承認された。

### 38G

数年前、カテゴリーとしてジュニアを新設したが、同様にマスター（内容はシニア）を新設しようと言う提案。この提案は否決された。

### 38H

マスターカテゴリーを記録にも加える提案。この提案は撤回された。

### 38M

現在、EMSはカテ2申請しない大会でも使用できる（この場合、実質無料となる）ようになっている。これを廃止して、カテ2申請しない場合でも最低料金を支払うシステムにする提案。この提案は撤回さ

れた。

### 380

現在の WPRS ポイントでは、大会が終了してから日が経つにつれて、ポイントが減額されるようになっている。これを大会終了してから1年間は減額しないようにする提案。作業部会でさらに協議することとして撤回された。

### 41A

ハンガリーの NAC から、多数のアキュラシー大会を主催し、ハンガリー CIVL 代表でもあり自身もアキュラシー選手としても活躍し、パラグライダー界に多大な貢献をしたので、Sandor Kaszas を F A I ハング・パラグライディングディプロマに推薦。この指名は承認された。

### 41B

イタリアの NAC から、1988年7月24日コモで気象条件が急変して、突風により吹き飛ばされたてなくなった5人のパイロットを、その犠牲によって、事前に気象譲歩を入手したり、無線機を携帯することなどの安全意識の向上をもたらしたことに對してペペ・ロペスメダルを送りたいとの推薦。この指名は承認された。

### 41C

理事会から、2023年の世界選手権を成功裏に開催した以下の主催者にエアースポーツメダルを送りたいとの推薦。この指名は承認された。

- ・第23回 HG クラス1、第14回女子 HG クラス1、第9回 HG クラス5世界選手権主催者：Ivan Lukanov
- ・第12回アキュラシー世界選手権主催者：Sotir Lazarkov

## B) HG 関連

### 38B

S7A の 8. 1 から 8. 3 に HG の耐空性についての規則が記述されているが、スプログに関しては、もっと厳しくする方向、一方サイドワイヤーを含む艀装ワイヤーなどは細かく規定しすぎており、ハーネスのスイングラインも材質を含め断面積を規定したりして、HG 機材の発展を妨げているので、それを

解消しようとする提案。ベースキャンプでさらに協議することとして撤回された。

**38Y**

現状 HG のクラス 5 世界選手権は、単独で開催するのが困難なため、クラス 1 世界選手権と抱き合わせで開催されている。しかしながらこのために、クラス 1 の選手枠が削られている現状を打開するために、クラス 5 の世界選手権をクラス 1 の大陸選手権と抱き合わせとする提案。この提案は大陸選手権と抱き合わせとする文言を、クラス 5 の世界選手権は偶数年に行うものとするに修正されて承認された。

今後の選手権立候補

**39K**

2026年8月 Mont Lachens, FRANCE HG クラス 1 およびクラス 5 ヨーロッパ選手権は承認された。

### C) HG/PGXC 共通関連

**18**

IT&ソフト担当者からのレポート

実際に、書面でのレポートは提出されず、口頭での説明がなされた。その要旨は、「新しい集計ソフトの AirScore はカテ 2 の大会でテストを重ねており、今年度中の正式リリースを目指している。チュートリアルなどのドキュメント整備やインフラ強化 (AWS への移行) の対応しているところである。

**25D**

S7 共通の 7. 3. 9 選手への外部からの手助けとして、選手間で、ナビゲーションやサーマル位置などの情報を送ることは禁止されているが、違反している事例があるので、厳しく取り締まることとし、情報を送った選手には 100%ペナルティ、そのチームの他の選手には 50%ペナルティを科すこととする提案。この提案は最終的に S7A の 6. 3 (ペナルティー) に「クロスカントリー大会では、空中にいる競技者以外のパイロットによるナビゲーションやサーマル位置を知らせる行為は禁止される。」を追加する提案に修正され承認された。

**38I**

カテ 1 大会に参加するに際し、参加資格がないのに例外規定を利用して参加できる道があるがこれを削

除する提案。この提案は否決された。

### 38J

S7F の 6. 2. 2. 1 は、ゴールがラインであった場合のゴールコントロールゾーンについて、ゴールポイントへ最終パイロンから引いたラインに垂直となるラインと、ゴールポイントを中心とする決められた半径の後ろ半円となっている。しかしながら最終パイロンがビッグシリンダーとなった場合、ラインの向きが実際と合わなくことを解消する提案。もっともな提案と思ったが、ビッグシリンダーを採用した場合の最適ルートの取り方がアルゴリズムによってピンポイントの 1 点にならないことによる無視できない誤差が出ることで、否決された。当分の間、最終パイロンからゴールの間にパイロンをセットすることなどで対処する。

### 38T

大会中の無線で、混乱を防ぐために、選手からの発信では、「キャンセル」、「ストップ」なる文言を使用禁止とし（主催者のみが使用可能）、競技の状況確認に関して選手は、「タスクステータス」を使用する提案。この提案は承認された。

## D) PGXC 関連

### 25B

PGXC 世界選手権でより公平性を担保するためにチームサイズを調節する提案。その中身は、チームサイズは  $n + 1$ （同一性は  $n$  まで）とフィックスする（どの国も  $n + 1$  以上の選手は参加できない）。チームスコアはタスクにおけるベスト 2 の合計とする。  $n$  の値は少なくとも 1 年前に決定し、2025 年は 3 とする。この提案は総会前の PGXC 委員会で議論が交わされましたが最終的に撤回された。

### 25E&F

ハイクアンドフライを新種目として認定し、競技ルール（S7L）を策定し、WPRS ランキングも公表してゆく。また現存の作業部会を常設委員会に格上げして、さらなる発展に寄与する提案。この提案は承認された。常設委員会の委員長は作業部会を主導したフランスのトーマス・セナックが指名された。

### 25I

CCC グライダーに関する規定 S7G に、遅くとも大会スタートの 114 日前までに CIVL に認証取得資

料を送付することとなっているのを、60日に短縮する提案。この提案は承認された。

#### 25K

これはS7Aの2.1(エントリー)として、2025年1月以降、大会参加許容最大人数は130とする。この人数は例外的に、大会立候補時に増やすことが出来る。となっているのを、カテ2大会ではこの最大人数は変更不可とする文言を追加する提案。この提案は承認された。

#### 38A

マルチイベントに関するルールをS7に明記する提案。この提案は撤回された。

#### 38C

カテ2として、1大会が数か国の選手権といったものが開催され、本来カテ2ルールで保証された枠の25%を、それらの国以外の選手用として枠取りをしていない大会が散見されるのでこれをやめさせる提案。その後、提案が修正され、大会が1か国の選手権では、海外枠を25%、2か国の選手権では20%、3か国以上の選手権では15%とすることになった。この提案は否決された。

#### 38E

大会競技中、無線の無変調が出て、実際に、スタート前に墜落したパイロットの救助のためにヘリを呼んだが、無変調が出ていたため、無線でヘリが着陸するのでエリアを開けるように指示したが不成功となった事例があった。またスタート前の高度獲得のために雲中飛行を防ぐための、制限高度を測定することもかねてダミーを飛ばせてこれを防ぐ提案。提案の形になっていないとして非決議となった。

#### 38K

現在のPGXC世界選手権では、強豪国のトップ選手には非常に狭き門となっている。また強豪国では、世界チャンピオンがいたり、女子もWPRSランキング上位者は別枠で入れることもあり、そうでない国との参加選手数が大きく乖離すると言ったことが起き、公平性が担保できないので、世界選手権を、個人と団体とに別々なものとして4年ごとに開催すると言う提案。この提案は撤回された。

#### 38L

WPRSポイントの計算で大会参加人数による係数(Pn)があります。これは、その大会参加者数を過去12ヶ月のその種目の大会での平均で割った数値の平方根になります。また、最大値は1.2に制限されています。これだと、参加人数の少ない大会の価値が下がる傾向になるので、過去12ヶ月の平均で

割るのではなく、決まった数値（55）に固定する提案。この提案は承認された。

### 38N

PGXC カテ1大会への参加資格条件が厳しすぎて、女子の参加を著しく難しくしていることを是正するために緩和する提案は修正され、最終的な内容は；

\*世界選手権では、現行の世界WPRS 700位まであるいは、ひとつのFAI公認大会で40点を取ったことがあるを、700位まで、30点と緩和する。

\*ヨーロッパ選手権では、現行のヨーロッパWPRS 700位まであるいは、ひとつのFAI公認大会で40点を取ったことがあるを、700位まで30点と緩和する。この提案はスクリーニング委員会が女子選手の参加を考慮することで対処することとして撤回された。

### 38P

S7Aの3.3.2にタスクが有効となるテイクオフオープン時間の規定があります。現在、PGでは選手1人につき30秒となっているが、これは短すぎるので、1人につき1分として、それに10分（高度を稼いでスタートに間に合わせる時間）を足した時間とする提案。この提案は撤回された。

### 38Q

\*\*リーグのように、年間数戦、戦って最後に年間ランキングを付けるもの（例えばJリーグ）に対して、最終ランキングにWPRSポイントを付与する方法を考案する作業部会を立ち上げる提案。この提案は承認された。

### 38R

現在あるジュニアカテゴリーにさらにサブカテゴリー（例えばU19とか）を設ける提案。この提案はWPRSランキングにある閾値（最低は19歳）を選択するとそれによるフィルターがかかったランキングが表示されるようにすることに修正されて承認された。

### 38S

CIVLの全てのPG公認大会（カテ1およびカテ2）に参加できるパラグライダーを製造日から10年以内とする提案。この提案は否決された。

### 38X

カテ1大会と日程を同一（あるいはほぼ同一）とする大きなカテ2大会を開催することは、カテ1大会

の開催される大陸にいる選手への不利益なるので、これを是正する（大会間に1週間明ける。そうでなければ当該カテ2大会に対して WPRS ポイントを付与せず、その大会を主催した NAC がその年度に主催する大会すべてに対しても WPRS ポイントを付与しないこととする）提案。この提案は撤回された。

今後の選手権立候補

**39D** 2026年8月 北マケドニア、Krushevo。XC ヨーロッパ選手権は承認された。

**39E** 2026年9月 アメリカ合衆国、Monroe。XC パンアメリカン選手権は承認された。

**39F** 2026年1～2月 メキシコ、Nayarit。XC パンアメリカン選手権は立候補資格なしで非採決。

**39G** 2026年6月 カザフスタン、Tekeli。XC アジア・オセアニア選手権は承認された。

**39L** 2026年 北マケドニア、Krushevo。XC ジュニア世界選手権（2026年8月6～19日に同じ場所で開催されるXC ヨーロッパ選手権と前後して開催予定）は承認された。

**E) PGA 関連：**

**29A**

S7C の 5. 4. 3. 2 でベスト\*\*人のパイロットとなっているところをベスト\*\*ランクのパイロットとする（同点となった場合にどちらも先に進めるように）。また 3. 3. 7（外部からの補助）として無線あるいは外部からの助けによりパイロットをターゲットに誘導することは禁止される。を追加する提案。この提案は承認された。

**29B**

S7C に 5. 4. 3. 3（ノックアウト後のジュニアおよび女子ランキング）として、ラウンド6でノックアウトされた後、少なくとも上位6位にランクされた女子およびジュニアは、総合カテゴリーとして選抜されるかどうかに関係なく、大会が終了するまで競技を継続する。選抜されなかった女子およびジュニアは、それぞれのカテゴリーのランキングのみを競い、それぞれのカテゴリーのメダルを目指して戦う。女子およびジュニアは、それぞれのカテゴリーでの競技が出来るとしても、総合カテゴリーとして選抜されなかった場合、総合ランキングでの順位はそれまでのランキングで凍結される。WPRS ラン

キングの対象となるのは総合ランキングである。を追加する提案。この提案は承認された。

## 29C

S7Cに5.4.4.1（ノックアウト後のチームランキング）として、6ラウンドでノックアウトされた後は、ランキング上位6チームのみが大会終了まで競技を継続する。7ラウンド以降はチームメンバーは3人として、チームスコアはベスト2の合計とする。6ラウンド終了時点でランキング上位6チームの中に3人の選手が選抜されなかった場合は、個人のランキングは6ラウンドで凍結されることとして3人になるまで補充する事が出来る。7ラウンド以降選抜されなかったチームのランキングはその時点で凍結される。を追加する提案。この提案は承認された。

## 29D

これは、最近野球やサッカーで採用されている、ビデオ判定を導入できるようにする提案。内容としては、S7Cに5.4.3（その他の測定システム）として、主催者が適切な測定システム（ビデオなど）を提供した場合、チーフジャッジはそれを受け入れ、採点に使用することができる。この測定システムはAMD(自動測定装置、つまりパッド)の代わりにはならない。チーフジャッジは、この測定システムを制御するビデオ測定ジャッジを任命しなければならない。の文言を追加し、現存の5.4.3項以下を、再ナンバリングする。この提案は承認された。

## 29E

これは、現在コンプレインならびにプロテストを入れるまでの時間が2時間と長すぎて、待ち時間が無駄であることを解消する提案。現在のS7C 7.2（コンプレイン）にプロビジョナル結果の公表から2時間となっているところを、プロビジョナル結果の公表から決められた時間内に提出されなければならないと変更し、7.2.1（オンライン結果でのコンプレイン申し立て時間）として結果をオンラインで公表する場合は、タイムリミットは結果公表から15分とする。パイロットまたはチームのリーダーがコンプレインを提出する場合は、この時間内に大会委員長またはチーフジャッジに通知するものとする。大会委員長は、コンプレインを提出しなければならない時間を設定する事が出来る。を追加し、7.2.2（オンラインでない場合のコンプレインの申し立て時間）として、現行の、2時間を1時間に変えて記述する。また、7.3（プロテスト）にタイムリミットが2時間となっているところを1時間に変更する。と言う提案。この提案は承認された。

**38A**

マルチイベントに関するルールをS7に明記する提案。この提案は撤回された。

**38AA**

カテ1大会においては、チームに重きを置いて、ノックアウトシステムを採用する場合は、最初の6ラウンド終了時点で、昨年のように60名の選手を選抜するのではなく、チームサイズが4人の場合は15チーム、チームサイズが7人の場合は8チームを選抜し、その後の選抜もチームの選抜とするアイデア。一方カテ2でノックアウトシステムを採用する場合は、昨年のように選手を選抜する。という提案。この提案は否決された。

**38F**

アキュラシー大会で、テイクオフ順をWPRS順とする提案（趣旨は、同レベルの選手がほぼ同じ時刻に飛ぶため、同一条件での勝負になる）は修正され、現行のS7Cの3. 2. 2. 1（フライト順の割り当て）の文言を3. 2. 2. 1. 1（カテ1）とし、新たに3. 2. 2. 1. 2（カテ2）として、パイロットは決められた順序でテイクオフする。登録時にチームリーダーがチームメンバーを決定する。パイロットには、WPRS ランキングに基づいて飛行順番号が割り当てられる。WPRS ランキングが最も低いパイロットがそのラウンドの最初にテイクオフする。同順位の場合はアルファベット順とする。トップ10のパイロットはそのラウンドで最後に飛び、くじ引き順とする。を追加する提案となり承認された。

**38G**

数年前、カテゴリーとしてジュニアを新設したが、同様にマスター（内容はシニア）を新設しようという提案。（年齢制限の案として、50歳とか55歳とかが上がっている）この提案は否決された。

**38I**

カテ1大会に参加するに際し、参加資格がないのに例外規定を利用して参加できる道があるがこれを削除する提案。この提案は否決された。

**38L**

WPRS ポイントの計算で大会参加者による係数（ $P_n$ ）があります。これは、その大会参加者数を過去12ヶ月のその種目の大会の平均で割った数値の平方根になります。また、最大値は1.2に制限されて

います。これだと、参加人数の少ない大会の価値が下がる傾向になるので、過去12ヶ月の平均で割るのではなく、あるきまった数値（種目により異なるも可）に固定する提案。この提案は承認された。

### 38R

現在あるジュニアカテゴリーにさらにサブカテゴリー（例えばU19とか）を設ける提案。この提案はWPRS ランキングにある閾値（最低は19歳）を選択するとそれによるフィルターがかかったランキングが表示されるようにすることに修正されて承認された。

### 38S

CIVL の全ての PG 公認大会（カテ1およびカテ2）に参加できるパラグライダーを製造日から10年以内とする提案。この提案は否決された。

### 38U

S7C（アキュラシー）の5、4、3、2（ノックアウト）に関して、6、8、10ラウンド終了後に、選手を上位からそれぞれのラウンドで60、40、20人をセレクトすることになっているが、カテ2大会では、ローカルルールでセレクトされる人数を自由に決めることが可能となっている。では、ノックアウトするラウンドを変更する、あるいはノックアウトする回数を変更するなどはあるのかどうか。また、ノックアウトされた選手は、競技を継続できないが、その場合記録（世界あるいは大陸）の挑戦はどうなるのかなどの疑問を、最終ノックアウトでのセレクト選手数を、20人から30人とする提案で、表明している。この提案は撤回された。

### 38V

全てのアキュラシー大会での最高フライト本数を12本とする提案。この提案は撤回された。

### 38W

アキュラシーカテ1大会の価値を上げるため、新しい大会の構成の提案（だがよく理解できない）。この提案は撤回された。

今後の選手権立候補

### 39J

2026年2月14～22日 タイ、PHATAKSUEA でのアジア選手権は承認された。

以上